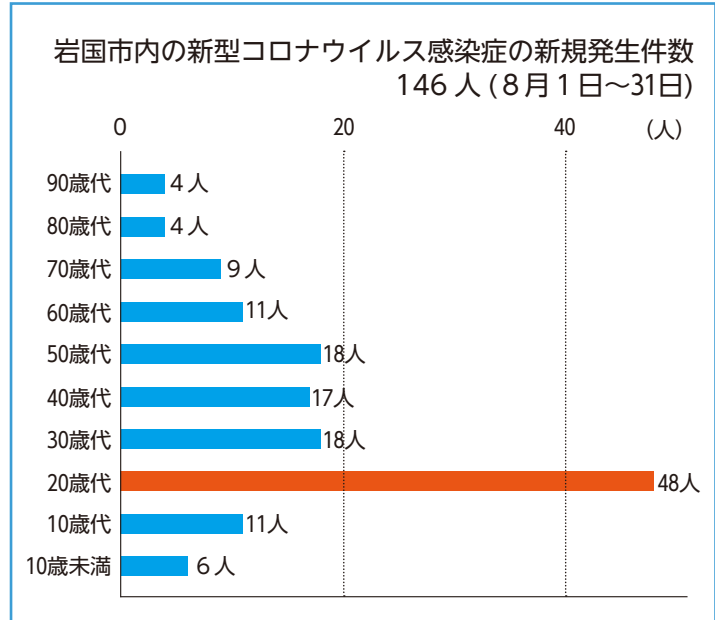


# 自分自身や大切な人を感染症から守ろう —若い世代の皆さまへ—

## 若い世代で新型コロナウイルスの感染が広がっています

岩国市内の8月の新型コロナウイルス感染症の新規感染者を年代別で見ると、特に20歳代の感染が目立ち、全体の約33%を占めていました。

若い世代は、感染による重症化リスクは低いといわれていますが、高熱や長引く咳、強い倦怠感<sup>けんたい</sup>など通常の風邪とは大きく異なる症状が出る場合があります。また感染者の中には、まれに嗅覚や味覚障害、記憶障害などの症状が続き、後遺症に苦しんでいる人がいます。引き続き、マスクの着用や手指消毒、人との距離を取るなどの感染拡大防止に努めましょう。



## ワクチンを接種して自分自身や大切な人を感染症から守ろう

ワクチンを接種し、ウイルスに対する免疫ができることによって感染しにくくなり、感染しても重症化を防ぐことができます。また感染したときのウイルスの量を低く抑える効果もあるため、あなたの家族や日常的に接する友人、職場の仲間への感染拡大を防ぐことも期待できます。

### ◆数字で見る市内の新型コロナウイルス感染状況とワクチン接種率

年代	R3.4.1～8.31		ワクチン接種率 (R3.9.1 時点)	
	感染者数(人)	感染率 (感染者数 / 人口)	1回目	2回目
10歳代未満	14	0.15%	—	—
10歳代	24	0.21%	36.78%	22.17%
20歳代	99	0.90%	39.16%	23.35%
30歳代	47	0.39%	43.02%	25.09%
40歳代	40	0.24%	51.82%	32.15%
50歳代	42	0.26%	62.29%	41.95%
60歳代	37	0.20%	80.61%	71.17%
70歳代	32	0.16%	92.52%	91.38%
80歳代	28	0.22%	94.35%	93.42%
90歳以上	18	0.47%	97.43%	94.45%
市全体	381	0.29%	67.25%	55.71%

# — 妊婦の皆さまへ —

## 妊娠中に感染したら

妊娠中に新型コロナウイルスに感染しても、基礎疾患を持たない場合、その経過は同年代の妊娠していない女性と変わらないとされています。しかし妊娠後期に感染すると早産率が高まり、一部で重症化することがあります。

## 妊娠中に感染した場合の胎児に与える影響

新型コロナウイルスに感染した妊婦から胎児への感染はまれだと考えられています。また妊娠初期または中期に新型コロナウイルスに感染した場合に、ウイルスが原因で胎児に先天異常が引き起こされる可能性は低いとされています。

## 妊娠中・授乳中でもワクチンは接種できます

妊娠中、授乳中の方も、ワクチンを接種することができます。ワクチンが妊娠や胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありません。接種を希望するときは、あらかじめ、かかりつけの産婦人科医に相談してください。

妊婦が感染する場合の約8割は、夫やパートナーからの感染です。家族や大切な人を守るためにも積極的にワクチン接種を検討してみましょう。

## 新型コロナウイルス Q & A

**Q 1** 妊娠中にワクチンを接種した場合、生まれてくる新生児に免疫はつきますか？

**A 1** 妊娠中（特に妊娠後期）にワクチンを接種することで、新生児にも抗体が移行する（免疫がつく）可能性があるという報告されています。

**Q 2** ワクチンを接種後に身体へ異変が出たり、将来生まれてくる子供へ影響が出たりしないか心配です。

**A 2** 接種したワクチンは数分から数日といった時間の経過とともに分解されていきます。また身体の遺伝情報(DNA)に組みこまれるものではありません。こうしたことからワクチンを接種することで、その遺伝情報が長期に残ったり精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと考えられています。



出典：厚生労働省ホームページ

